

丹南農林だより

緑のバトンつながった!

第60回全国植樹祭ポスト大会～第51回県緑化大会in越前市

「未来へと緑のバトンつなげよう」をテーマに、第60回全国植樹祭ポスト大会～第51回県緑化大会in越前市～を6月6日(日)越前市安養寺町のみどりと自然の村をメイン会場に開催しました。

当日は、西川知事や奈良越前市長をはじめ、緑化推進関係者・市民ら約1千人が入場し、植樹や木工体験、自然体験ツアーなど、さまざまな催しを通して、緑への親しみを深めていました。



ふっくりん



福井県知事などによる
記念植樹
(ケヤキ、イロハモミジ、
ソメイヨシノ)

緑の少年団による
誓いの言葉



楽しかった木工教室



林業ってすごい!
高性能林業機械の実演



森のクイズロボ「みっぴい」と
森のクイズ勝負!

植樹祭に出演したコカリナ音楽隊を母体とするふくいコカリナアンサンブルや、仁愛大の和太鼓グループの演奏があり、緑豊かな会場をさらに爽やかにしてくれました。また、地元で40年ぶりに飛来したコウノトリ「えっちゃん」を紹介するコーナーもあり、白山・坂口地区の農家らでつくる「コウノトリを呼び戻す農法部会」のメンバーが育てた無農薬のおにぎりや豚汁が振る舞われました。

平成22年6月24日

No.31

丹南農林総合事務所 越前市上太田町41-5

TEL (0778) 23-4530 (企画振興室) TEL (0778) 23-4961 (林業部)

TEL (0778) 23-4534 (農業経営支援部) TEL (0778) 23-4963 (農村整備部)

丹生分庁舎 越前町内郡14-36 TEL (0778) 34-1790

URL <http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/tan-noso/>

E-mail tan-noso@pref.fukui.lg.jp



健康長寿の福井

みっぴいに聞く
森のナイショ話



当日、会場には丸太のベンチが100脚ならべられ、「木のぬくもりが感じられる」など、来場者のみなさんにとっても好評でした。しかし、その舞台裏には、汗と涙で彩られた数々のドラマがかくされていたことをご存知でしょうか？



「森は人の手で支えられている」

いま福井の山が緑でいっぱいなのは人がスギなどを植えてきたからです。今回紹介した事例は特別なことではなく、実際にも多くの方が森の中で作業をしています。

人が植えた森は手入れをしなければ維持できません。そのため、国や県などの補助金が使われ、手入れがされています。

これらの補助金はみなさんの大切な税金ですので、私たち丹南農林総合事務所では、最小の労力で効率よく森の手入れが進むように業務を行なっています。



アグリビジネス講座 参加者大募集!

(昨年に引き続き開催します)

経営戦略、商品づくり等に必要な知識と技術を身に付けて、
経営のステップアップを目指しましょう!



開催時期

平成22年6月30日～平成22年11月(全7回)

会場

JA越前たけふ宮農センター 他

対象者

・経営の多角化を考えている農業者または集落組織
・農産加工実践者や、加工による起業活動を考えている農業者

応募人数

50名(丹南管内)

受講料

無料(ただし、実習等の実費相当分をご負担頂く場合があります。)

年間スケジュール

	日時	主な内容
1	6月30日(水) 10:00～16:10	経営戦略をたてよう! ●厳しい農業情勢、いかに生き残るか、戦略作りが重要です。 お話を聞いた後、午後は実際に作り方を体験します。 ●講師: 中小企業診断士 ドモドモコーポレーション 遠田幹雄氏
2	7月21日(水) 13:30～16:30	売れる商品をつくろう! ●講師: アーチザン&パートナーズ 景山直恵 氏 他
3	8月上旬 1日	多様なアグリビジネスを考える! 加工食品を作るために! (営業許可および食品衛生について) 委託加工とは (規格外品の加工・販売について)
4	10月 半日	漬物加工について ●お話と実習 ●漬物の事例紹介
5	10月 半日	餅(菓子)米加工について ●お話と実習(餅の保存について) ●餅(菓子)米加工の事例紹介
6	11月 半日	果樹の加工について ●お話と実習 ●果樹加工の事例紹介
7	11月 半日	加工で地域を元気に! —実践者の講演—

※3回目以降は、変更があるかもしれませんので、ご了承ください。

講座受講のお申し込み先

丹南農林総合事務所 農業経営支援部 担当: 村野
電話 0778-23-4532 FAX 0778-22-4862

コウノトリがやって来た

今、越前市内では、一羽のコウノトリが早朝の水田で餌をついばんでいる様子が、日常的な風景となっています。

越前市には、化学肥料や化学農薬を使った生産性向上全盛の時期に、水稻の有機栽培を実践していた先達がいらっしゃいました。今では高齢になり第一線を退かれましたが、経営を引き継いだ後継者の方も、環境に優しい農業に熱心に取り組んでおられます。

コウノトリが生きていくには、毎日500g以上の餌となる生きものがが必要です。

市内でコウノトリが初めて目撃されてから2カ月以上がたちますが、これは、コウノトリが生きていけるだけの小動物が潤沢にいるということで、もし、小動物等が少なかったら、住みつくことはできなかったのではないかと思います。

数名の先達と近隣の方々によって育まれてきた豊かな生き物の存在を許す土壌が、コウノトリをここに呼び寄せたのではないかと思います。改めて土づくりの大切さや、短期的には見えてこない『農業』と言う命を支える産業の重みを感じます。



「中干し」、「草刈り」の実施による品質向上を!!



1

中干しの実施で、イキイキ根っこ

「中干し」は、過剰生育を抑制して根の生長を促進します!!

移植なら1株茎数18本、直播なら1mあたり茎数100本になったら、中干しを始めます。

中干しの強さは、乾田では弱めに、湿田ではヒビが入る程度まで行います。

中干し以降は間断通水を行い、根の活力を低下させないようにしましょう。

2

草刈りによる斑点米防止

草刈で、斑点米カメムシの増殖場所であるイネ科雑草をなくしましょう!!

畦畔の草刈りや大麦後水田の耕うんを、7/10までに必ず2回実施し、斑点米カメムシの生息数を減らしましょう。

福井県が進める“一斉草刈りデー”は、6/19~20と7/3~4の2回です。草刈り・耕うんが遅れると、カメムシが雑草から水田にそのまま移動してしまいますので、時期を厳守しましょう。

3

エコファーマー米の生産推進について

福井県では、安全安心で環境にやさしいエコ農産物の生産拡大のために、「福井米の生産者全員が、**エコファーマー**^{*}になる」ことを目指しています。

※エコファーマー：土づくりをおこない、化学肥料と農薬を通常の栽培方法に比べ20%以上削減して栽培する農家

このマークは環境にやさしい農産物の証です。

エコファーマー農産物



農薬・化学肥料を2割以上削減した農産物です。

環境に優しい農業に取り組む計画を立て、知事の認定を受けた農業者が生産しています。

中山間地域総合整備事業（一般型）

河和田地区にて、水田魚道を設置

鯖江市河和田地区では、平成16年の福井豪雨で甚大な被害を受けた農地の復旧整備と併せて、老朽化した用排水路の再整備、ため池整備等を行っています。

平成21年度に別司町では排水路の整備とともに、水田魚道を2箇所設置し、水路内に生息する魚類（ドジョウやメダカなど）が、産卵場所として田んぼ内へ昇れるような施設も整備しました。これにより、近隣を流れる河和田川・用排水路・ほ場が魚類の移動経路として繋がり、1連のネットワークが完成しました。

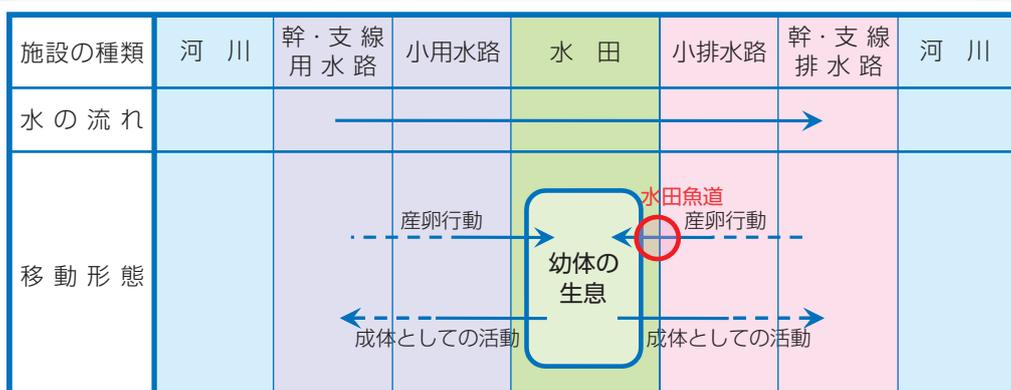
今後は魚道に流す水量の確保やほ場内産卵場の創設など地元耕作者等の協力を得ながら、生物が生息できる環境を維持・管理していく必要があります。



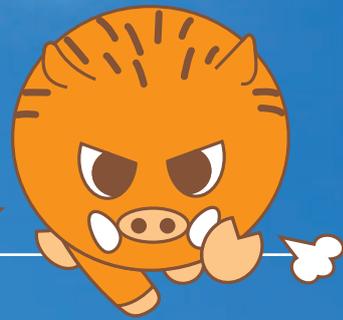
整備した水田魚道（鯖江市別司町）



遡上するドジョウの様子



イノシシによる 農作物被害の防止について



被害が減らない理由…心あたりはないですか？

「柵をつくれば安心」「駆除だけすれば大丈夫」は大間違い!!

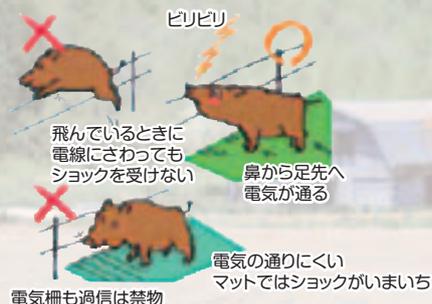
集落全体で徹底的に「嫌がらせ」を

野菜くず、生ゴミ、落下果樹、お供え物などの放置は、餌付けと同じです。餌が豊富な環境では、捕獲・駆除をしても、生息数はすぐ回復します。餌となるものは、即刻回収するなどの処置をします。また、耕作放棄地や田畑周辺の山ぎわ部分のヤブを刈り払って見通しをよくし、隠れ場所をなくすなど、イノシシが嫌がる環境をつくるのが防除の第一歩です。

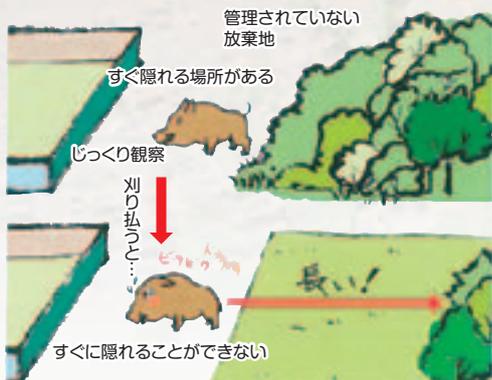
自分の田畑は自分で守ると同時に、集落で歩調をあわせて田畑を守ることによって、イノシシはさらに集落へ近づきにくくなります。

「電気柵」手入れがなければ「ただの柵」

トタンや金網、電気柵で囲うのは重要な対策です。しかし安心はできません。わずかな隙間でもあればおいしい「えさ」を発見し、くぐり抜ける、飛び越えるなど高い運動能力を駆使して突破してきます。とくにお金をかけた電気柵は過信のもとにもなります。電線が雑草に接触していると漏電状態になってしまうので、下草の手入れを怠れば「ただの柵」になってしまいます。イノシシは鼻先以外、電気ショックを受けないことも忘れずに。



刈り払いで「隠れ場所」をなくす



イノシシが丸見えになるようヤブを刈り払い、隠れ場所をなくす。

耕作放棄地やヤブなどはイノシシが隠れる絶好の場所になります。山ぎわやこのような場所を刈り払って見通しをよくしましょう。

また、山ぎわに人が行き来することで、警戒心の強いイノシシは出にくくなります。

電気柵の点検道は田畑側ではなく山側に設置し、時々人が通るようにしましょう。

福井県では、これまで、野生動物の「被害防除」を農業部局が、「生息地管理」と「個体数管理」を自然環境部局が担当してましたが、今年度から防除と生息管理を一体で取組むため、農林水産部内に鳥獣害対策室を設置しました。丹南農林総合事務所では現地指導チームを設置して市町村と連携し、本年度は、緊急性の高い集落を選定し被害防止のための活動支援を進めます。